

### 1 自己評価及び外部評価結果

#### 【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	4091600298		
法人名	医療法人八十八会		
事業所名	グループホームこすもすⅡ	(ユニット名	1F・2F )
所在地	福岡県久留米市国分町2050-1		
自己評価作成日	令和3年11月22日		

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	<a href="http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php">http://www.kaigokensaku.jp/40/index.php</a>
----------	---

#### 【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	公益社団法人福岡県介護福祉士会		
所在地	福岡市博多区博多駅東1-1-16第2高田ビル2階		
訪問調査日	令和3年12月16日		

#### 【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

朝の申し送り後、入居者の方と共に理念を唱和しています。毎日の掃除には、職員一斉に一時間かけて行っています。浴室の掃除は磨いた後、空拭きをその都度行っています。誕生会では手作りケーキを作り、希望者にはお化粧してドレスを着て頂いています。7月のそうめん流し、年2回の食事会ではお好み焼きとたこ焼きを職員と一緒に作り、入居者の方にとても大好評です。コロナ渦の中オンラインでの面会を導入し、入居者と御家族とのふれあいを支援しております。医療法人八十八会グループにて、医療・介護・福祉・栄養面・リハビリ(OT・PT)による訪問で連携を図っています。

#### 【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

事業所の前には小川が流れ天気の良い日には散歩を楽しんでいる。また事業所の窓からは慈母大観音像の後ろ姿が眺められ利用者が窓から手を合わせている姿が見られる。朝の申し送り時には開設時に利用者とともに考えた理念「笑顔あふれる毎日を一緒に過ごしましょう」「お話をしっかりしましょう」「地域とのふれあいを大切にします」を唱和し、職員は常に理念を念頭に置いたケアに取り組んでいる。事業所内は掃除が行き届き、感染症対策で除菌も徹底され、利用者に安全で気持ちよく過ごしてもらいたいという職員の配慮が伺える。職員同士の信頼関係が築けておりコミュニケーションが良く取れ、楽しく生き活きと働いている。今後も、理念にある地域と密着し、笑顔あふれる毎日の実践継続が期待できる事業所である。

### V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1～57で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印	項目	取り組みの成果 ↓該当するものに○印
58 職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:25,26,27)	○ 1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんど掴んでいない	65 職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,21)	○ 1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
59 利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:20,38)	○ 1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	66 通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,22)	○ 1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
60 利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:40)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67 運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが拡がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○ 1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くない
61 利用者は、職員が支援することで生き生きした表情や姿がみられている (参考項目:38,39)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68 職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○ 1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
62 利用者は、戸外に行きたいところへ出かけている (参考項目:51)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	69 職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
63 利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:32,33)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	70 職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○ 1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
64 利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らしている (参考項目:30)	○ 1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない		

# 自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
<b>I.理念に基づく運営</b>					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	毎日の申し送り時に入居者と一緒に理念を唱和して確認。入居者との関わりの中で意識して行い、実現に取り組んでいる。又、理念を通してスタッフと入居者間の意思を統一することで、1日の始まりの朝の挨拶としている。	開設時、利用者と職員が一緒に作った「笑顔あふれる毎日と一緒に過ごしましょう」「お話しをしっかりとしましょう。聴きましょう」「地域とのふれあいを大切にします」の理念を毎朝、利用者・職員で唱和し、管理者、職員、利用者ともに共有しており理念に添ったケアが行われている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	コロナ感染症対策の為、現在 地域交流は行っていない。	コロナ禍の前は地域の行事に参加したり、事業所の行事に地域の方が参加されたりと交流が出来ていたが現在は感染予防のため交流が出来ていない。米やパン等は地域の業者から仕入れており配達時に地域の情報を聞いている。自治会に加入しており回覧板等は職員が対応している。	感染症が収束した際には、利用者と一緒に回覧板を回すなどの地域交流についても検討の機会が持たれることを期待したい。
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	見学に来られる方や、又直接電話などで御家族や近隣の方より認知症の方に対する相談を受けることがあり、介護保険の仕組みや施設等の説明を行っている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	会議を行えない為、各関係者の方に資料を2カ月に1回郵送し、電話にて意見を聞き集約し市に報告している。	コロナ禍にあることから、現在は書面と電話を利用しての会議になっている。事前に書面にて課題を送付し電話にて回答や意見を聞き集約している。集約したものは委員に再度送付している。委員からは「事故報告書の書き方」について助言があり、ミーティングで研修を行っている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	課題や疑問が生じた場合、市町村担当者に相談し解決を行う。現在、事故報告等は郵送で行っている。	介護保険制度などについて、解らないことがあればその都度、市の担当者に確認し、助言をもらっている。生活機能訓練加算を算定するにあたって、どのようにプランを立てたらよいか確認したこともある。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者および全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービスにおける禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	3ヶ月に一度 身体拘束委員会を行い、又日々の申し送り時等でそのケアを振り返り、身体拘束しないケアに取り組んでいる。	身体拘束委員会が整備されており、ミーティングの時に研修を行っているため、員はどのようなことが身体拘束に当たるのかを理解し職員間で注意し合っている。事務所にアンケート箱を設置しており、職員は気になることがあれば記載し、管理者がその内容について担当者に確認する仕組みがあり、ミーティングで報告し振り返りを行っている。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見過ごされることがないように注意を払い、防止に努めている	勉強会やミーティング等を実施し、高齢者虐待防止の理解を深めている。虐待防止委員会を設置している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8	(6)	○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	職員に資料を配布し理解を深めてもらっている。玄関にはパンフレット資料を置き、相談自に説明できるようにしている。	以前は系列法人内で研修を行っていたが現在は開催していない。事業所内でミーティング時に管理者が研修を行っている。また職員は日頃から分からないことがあれば管理者に伝えると管理者が資料等を用いて説明をしている。現在、成年後見制度を活用している方があり、職員は概ね制度を理解している。	
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書・利用契約書等を時間をかけ、十分・丁寧に説明し同意を得る様になっている。又 疑問があればそれに対して十分説明行っている。		
10	(7)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	重要事項説明書にも記載している。又 玄関に御意見箱を設置し対応している。スタッフによる苦情処理委員会を設け、速やかに話し合い対応を行うようにしている。	職員は話しやすい雰囲気づくりに気を付けており、家族の訪問時やケアプランの内容等で電話をした時に意見や要望を確認している。家族からは「転倒をしないようにしてほしい」「認知症が進まないようにしてほしい」「他者との交流をしてほしい」という要望が出ている。要望等はケアプランに取り入れ実践している。実践内容は毎日の経過記録に記載している。	
11	(8)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	全体ミーティングを月1回行い、申し送りや日頃の会話等で、職員の意見・要望を聞いている。日頃から意見を出しやすい様にコミュニケーションを図り、心がけ聞き出している。	管理者には日頃から意見を言いやすい雰囲気があり、要望等があれば遠慮なく言える関係にある。職員からの運営に関する意見等は直近の事例として発生していない。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員の心身の健康状態を維持する為、健康診断の実施や労働条件を整えている。ストレスチェックを年1回行っている。職員の資格取得に向けた情報を流している。又、資格取得制度を実施している。		
13	(9)	○人権の尊重 法人代表者及び管理者は、職員の募集・採用にあたっては性別や年齢等を理由に採用対象から排除しないようにしている。また、事業所で働く職員についても、その能力を発揮し生き生きとして勤務し、社会参加や自己実現の権利が十分に保障されるよう配慮している	職員の募集・採用で性別・年齢等を理由に排除していない。各々の趣味・特技を活かしてレクリエーションや行事やおやつ作り等に活かしている。	職員の採用にあたり特段の条件を設けていない。研修への参加や希望休暇の取得、急な用事の時の勤務交替等、配慮がなされている。職員は裁縫や折り紙等、自分の得意分野を業務に活かす機会がある。	
14	(10)	○人権教育・啓発活動 法人代表者及び管理者は、入居者に対する人権を尊重するために、職員等に対する人権教育、啓発活動に取り組んでいる	日頃の気付き(言葉遣い・行動・身だしなみ等)を申し送り、ミーティング等で話し合い、人権教育に取り組んでいる。	以前は系列の法人で各事業所の代表者が参加する研修を行い、資料を持ち帰り職員に周知していたが、集合研修を見合せている。現在は事業所内で研修を行い利用者の人権の尊重に取り組んでいる。法人内の研修は近々再開の予定である。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
15		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	現在、法人での研修等は出来ていないが、毎月のミーティングで資料を元に勉強を行っている。		
16		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	現在はコロナ渦の為、出来ていない。		
<b>II.安心と信頼に向けた関係づくりと支援</b>					
17		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	まずは、グループホームに来て頂き様子を見て頂く。実際には中には入れない為、居室内の写真を撮ってお渡しし確認してもらっている。事前面談で生活状態や本人がおかれている状況を理解し、信頼関係を作る様努めている。(インテーク等)		
18		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	相談に訪問された時、御家族が求めるもの(これまでの苦労・不安等)を理解、再確認し、信頼関係を作る様に努めている。(インテーク等)		
19		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	相談時、本人や御家族の現況やその思い等、改善に向けた支援の提案をしながら信頼関係を築き必要なサービスに繋げる様にしている。		
20		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	本人の苦しみ・不安・喜びを知る事に努め、共に支えあえる関係づくりをしている。入居者は人生の先輩である(尊厳と尊重)という考えを職員と共有し普段から入居者に教えて頂いたり、会話を多くもてる様にセッティングや工夫し声かけに配慮している。		
21		○本人と共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	入居者の様子や職員の思いを伝え、御家族と職員の思いを一緒に支えていく為、面会時や随時の電話等、協力関係を築いている。受診前後の連絡も必ず行っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22	(11)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	若い頃からの知人が手紙や葉書、又、庭の花の写真等を毎月送ってこられる。	コロナ禍になり、今まで出来ていた外出や外部からの訪問が出来なくなったが、電話の取次ぎや希望家族とはラインでのビデオ通話で交流をしている。通院の途中に本人の希望で自宅の前を通り思い出が途切れないように支援している。	
23		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	入居者同士の関係について職員が情報交換・伝達し、本人の心身状態や気分、感情等を注意深く見守り、平等に声かけを行い、入居者同士の関係が円滑になる様な働きかけを行っている。		
24		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	以前、入居されていた家族から畑で採れた野菜を頂いたり、人形や陶器等を使って下さいと頂いた。又、知り合いの入居申し込みの相談を受けることがある。		
<b>Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント</b>					
25	(12)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	日々の生活の中で(入浴等 リラックスされておられる時)にお話し、思いや意向に把握に努めている。	日常生活の中で、特に入浴時や食事の時間に話される些細な事、若い頃の話や楽しかった事、やりたい事などを聞き取り、希望や意向の把握に努めている。把握困難な場合は、その日の体調や、表情などを見ながら思いや意向を確認している。	
26		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	利用時に本人・御家族・関係者などから、会話の中で聴き取るようにしている。利用後折に触れ、どんな生活をしていたのかを聴いている。(インタビュー、生活歴等)		
27		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	入居者一人ひとりの生活リズムを把握・理解し感じ取り、本人の出来ること・判ることを、本人の生活や全体像から把握していくように努めている。本人の気持ちや希望を尊重している。又、毎日のバイタルチェックで身体的状態の変化を観ている。		
28	(13)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人・御家族には日頃の関わりの中での思い、意見を聞き、プランに反映させるようにしている。アセスメントを含め担当職員や他職員で意見交換やモニタリング等を行って、計画作成をしている。	本人、家族、主治医等の意見を聞き、計画作成者が原案を作成しミーティング等で職員に周知している。介護計画書は、経過記録とセットで置かれ、計画書に基づきケアが実施されている。毎月のモニタリング、6ヶ月ごとの計画書の見直しを行っている。状態変化時は随時見直しを行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	入居者の状態変化や状況、御家族・本人の要望に応じて期間が終了する前においても、サービス担当者会議を実施し、モニタリング・見直しを行っている。		
30		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	基本的な一日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はせず、一人ひとりの体調に配慮し本人の気持ちを尊重し、個別性のある柔軟な対応をしている。		
31		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	グループホームの畑にさつまいもを植えるのに近所の方に植え方を教わった。そして、入居者と一緒に植え収穫を行った。		
32	(14)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	本人や御家族が希望するかかりつけ医となっている。又、受診や通院は、本人や御家族の希望に応じ対応している。基本的には、家族同行の受診となっているが、不可能な時は職員が代行する。その旨を利用契約時説明し、同意を得ている。	入居前のかかりつけ医受診の継続も出来る事を説明しているが、本人、家族の希望により事業所協力医がかかりつけ医となっている。月2回の訪問診療、週2回の訪問看護があり健康管理、急変時の対応を行っている。他科受診の時は、受診後に受診内容や処方薬について管理者から家族へ連絡している。医師から直接家族へ話されることもある。	
33		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	医療連携体制(看護師週2回、毎日バイタル報告)をとり、介護職員の日々の記録をもとに状況・状態を報告している。又、何かある時には、すぐ電話連絡対応している。		
34		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時にホームでの生活状況を提供し、又退院時は病院での状況を提供して頂くように連携を取っている。家族へも報告し、又相談にも乗っている。		
35	(15)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	重度化対応・終末ケア対応指針のマニュアル、同意書を作成している。本人・家族の希望第一取り扱うが、主治医、看護師指導、助言を得て、管理者が本人・家族と話し合っ対応する。	入居時に、本人・家族の意向を確認し、同意書を作成している。重度化した場合は、主治医からの説明を受け、法人の生活相談員、管理者、家族で話し合い、事業所でできることを説明し終末期に向けた取り組みを行っている。医療機関に入院されるケースが多く事業所での看取りはない。自宅看取りの希望の時も、事業所でできる支援を行った事例がある。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
36		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	緊急時対応について、マニュアル・連絡網を整備し周知・徹底を行っている。		
37	(16)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	消防署の協力を得て、避難訓練・避難経路の確認・通報訓練・消火器の使い方などの訓練を定期的に行っている。水害時は2階へ避難する。地震時は布団をかぶり、テーブル下へ潜る。(5月・12月) 非常食も備えている。市の緊急告知FMラジオを設置している。	年2回の避難訓練を行っている。コロナ禍で自主訓練となっている。利用者もほぼ全員誘導し、地震や風水害の訓練も行っている。地域住民、同法人の老人保健施設やグループホームからの応援がある。水害時の避難確保計画を作成している。備蓄は3日分の食料が準備され、リストとともにメニューも付帯されている。	
<b>IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援</b>					
38	(17)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	採用時個人情報保護に関する説明を行い、契約書の提出を義務付けています。写真使用については入居時に同意を得ている。又、日々意識向上を図る為、職員のロッカールームに「守秘義務」と掲示している。	排泄に関して、声掛けでは、ほかの方に気づかれないようにジェスチャーや小さな声で対応したり、トイレではドアを閉めるようにしている。利用者も職員間も名前を呼ぶ時は、〇〇さんと呼ぶようにしている。難聴の方も多く、大きい声で対応しがちなのでミーティング等言葉かけの方法など注意喚起をしている。	
39		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	利用者に合わせ、職員側で決めた事は押し付けずに一人ひとりの利用者が自分で決める場面を作っている。		
40		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切にし、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	基本的な一日の流れは持っているが、時間を区切った過ごし方はせず、一人ひとりの体調に配慮し本人の気持ちを尊重し、個別性のある柔軟な対応をしている。		
41		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	朝の着替えは基本的に本人の意向で決めており、おしゃれを楽しんでもらえる様取り組んでいる。手足の爪切り・耳かき等を随時支援している。		
42	(18)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	食事中は音楽(BGM)を聴きながら楽しい雰囲気づくりを大切にしており、テーブルの配置変えをしたり、座る場所を変えたりしている。本人の好味でポン酢やシロップ等で対応している。	裏の畑で利用者と一緒に収穫した野菜や、家族から届いた野菜を食卓に載せ「〇〇さんの息子さんから頂いた野菜です」と会話しながら食事を楽しんでいる。コロナ前までは職員も一緒に食事をしてきた。杏や蜜柑の木があり収穫したものをゼリーにして提供している。利用者は、もやしの根切りやピースのまめとりなどできることを手伝ってもらっている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	管理栄養士の献立の元で調理し、水分補給は時間と本人の希望により摂取している。又、ドクター指示により食事形態や制限を行っている。 食べれない物は代替えている。		
44		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後の歯磨きを一人ひとりの能力、口腔状態により「支援・介助」を行い、実際歯科医師に判らないことは尋ねる。義歯の消毒を職員が行っている。		
45	(19)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	入居者の排泄チェック表を参考に個々の排泄チェックパターンを確認し、声かけ・誘導している。紙パンツ・パット等の使用を減らすように心がけている。	利用者ごとに排泄チェック表があり、排泄パターンに合わせた声掛け誘導を実施している。夜間もリハビリパンツ使用で誘導を行っている。病院や老人保健施設からリハビリパンツ使用で入居された方も定時誘導でショーツに変更できた事例があり、排泄の自立に向けた支援を行っている。	
46		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	繊維質の多い食材や乳製品を取り入れ、なるべく身体を動かす機会を設け、水分補給し自然排便ができる様、取り組んでいる。医師に相談し排便のコントロールを行っている。		
47	(20)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めてしまわずに、個々にそった支援をしている	職員がなるべく希望を聞いて、身体状況に配慮しバイタルチェックを行い入浴をして頂く。排便時等汚染された折は、随時入って頂く。	週2～3回午後からの入浴としている。シャンプーやリンスは2種類準備し利用者を選んでもらったり、個人で好みのものを準備してもらったりして。数名の方の希望により、同性介護の対応をしている。季節のゆず湯や菖蒲湯をすることもある。入浴時に、一緒に歌を歌ったりおしゃべりをしたりと楽しいひと時になっている。	
48		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	睡眠パターンを把握し、なるべく日中の活動を促し生活リズムを整えるよう努めている。場合によっては、家族や医師と相談し調整に努めている。		
49		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	個人の服薬内容を職員がいつでも閲覧し把握できるようにしている。薬は事務所で保管・管理し、服薬時に本人に手渡し与薬手順方法で行っている。		



自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	花の水やり・洗濯物干し・たたみ・テーブル拭き・料理の下ごしらえ等一人ひとりの力を発揮してもらえる様お願いし、感謝の言葉を伝えている。趣味(編み物・卓球等)を活かした生活を支援している。		
51	(21)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	受診時は車内より外の景色を見て気分転換して頂いている。天気の良い日は、川沿いを散歩したり、近所のお庭の花や畑を見て、季節を感じて頂いている。桜の時期には近くの公園に行き花見を楽しまれた。	事業所前に川が流れており日常的な散歩コースになっている。途中で休憩が必要な方も居られるため職員は携帯用の椅子を持参している。野の花や川辺で遊ぶ水鳥を見て会話を楽しんでいる。受診等で外出した際に自宅までドライブし気分転換を図っている。	
52		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	本人の管理能力や御家族の意向に合わせ、本人がお金を持っている方とお預かりしている人がある。お預かりしている方は、個別の出納帳を作成し領収書を貼布し、御家族の方に定期的に報告している お預かり金等管理規定を作成している。		
53		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	入居者の希望に応じて電話や手紙を出せる様対応し、耳の遠い方にはスタッフが仲介して話ができる様にしたり、又 物品が送られて来た時は、お礼の手紙や電話を出来る様支援している。		
54	(22)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	玄関・ホール内に季節の花を飾り、又 台所では茶碗を洗う音・ご飯の炊ける匂いや季節を感じる食事を提供している。数回の換気・臭いの除去(トイレ)・毎日の清掃等で、清潔感を保つように努めている。	毎日1時間かけて清掃を徹底し、環境整備を行っている。利用者が集うリビングは、季節の花や利用者と一緒に創った作品、行事の写真等を飾りつけている。ゆったりとしたソファを設置しており、利用者が思い思いに過ごせる空間となっている。	
55		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	食堂のテーブルやソファ・畳敷きのコーナーがあり、入居者一人ひとりの思いの通り過ごせるよう工夫している。ベランダでの日向ぼっこをしたり、散歩したり、気の合った者同士でお話ししたりテレビを見たり、趣味をされたりしている。		
56	(23)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	使い慣れた生活用品を持ち込まれ、安心された生活をされている。又、趣味の物を飾られてたり、家族からのプレゼント・写真等を飾られている。部屋に遺影、仏壇を置かれている。	備え付けの机、ベッド、タンスがあり、個々の馴染みの品や趣味の品が持ち込まれている。韓流スターや演歌歌手の写真があったり、家族の写真が飾られたりと利用者が穏やかに過ごせる居室となっている。	
57		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	本人の状態を把握し、必要な物や馴染みの物を活かし、それぞれに合わせた工夫をしている。トイレには「便所」、入口に入居者さんの愛着あるものを掲げ目印としている。		